

Asia Indicators

発表日: 2023 年 12 月 29 日(金)

生産活動は韓国で底堅い一方、台湾は底入れに一服感(Asia Weekly(12/22~12/29))

～アジア新興国の生産活動は総じて一進一退の様相をみせる展開が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/22(金)	(台湾)11月失業率(季調済)	3.37%	--	3.41%
12/25(月)	(タイ)11月輸出(前年比)	+4.9%	+6.3%	+8.0%
	11月輸入(前年比)	+10.1%	--	+10.2%
	(台湾)11月鉱工業生産(前年比)	▲2.48%	--	▲2.27%
12/26(火)	(シンガポール)11月消費者物価(前年比)	+3.6%	+3.8%	+4.7%
	11月鉱工業生産(前年比)	+1.0%	+3.1%	+7.6%
12/28(木)	(韓国)11月鉱工業生産(前年比)	+5.3%	+3.0%	+0.9%
	(タイ)11月製造業生産(前年比)	▲4.71%	▲4.00%	▲4.31%
12/29(金)	(韓国)12月消費者物価(前年比)	+3.2%	+3.3%	+3.3%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

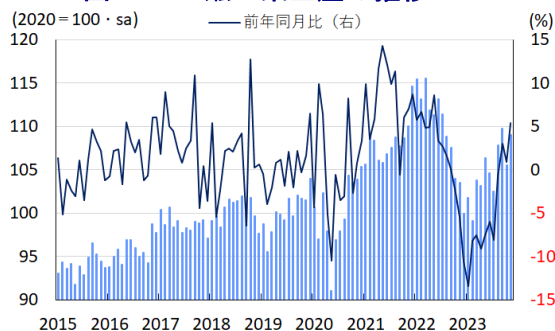
[韓国]～生産活動に底堅い動きがみられる一方、インフレは鈍化も依然中銀目標を大きく上回る推移が続く～

28日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+5.3%となり、前月(同+0.9%)から伸びが加速している。前月比も+3.3%と前月(同▲3.8%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。鉱業部門や製造業部門を中心に生産活動が底入れする動きが確認されており、自動車をはじめとする輸送用機械関連のほか、鉄鋼をはじめとする金属関連の生産は弱含む動きをみせる一方、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、医薬品関連、縫製品関連における生産拡大の動きが生産全体を押し上げることに繋がっている。出荷・在庫バランスを巡っても、半導体関連を中心に底入れの動きを強めている様子が見え始めるなど、弱含む展開が続いてきた出荷動向の改善が生産活動を押し上げているとみられる。

29日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+3.2%となり、前月(同+3.3%)からわずかに伸びが鈍化している。ただし、前月比は+0.04%と前月(同▲0.52%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、生鮮品や穀物価格などの上昇の動きを受けて食料品価格は上昇に転じるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.8%と前月(同+2.9%)から鈍化して2002年3月以来の伸びとなっているものの、インフレ率とともに中銀の定めるインフレ目標(2%)を上回る推移が続いている。前月比は+0.18%と前月(同+

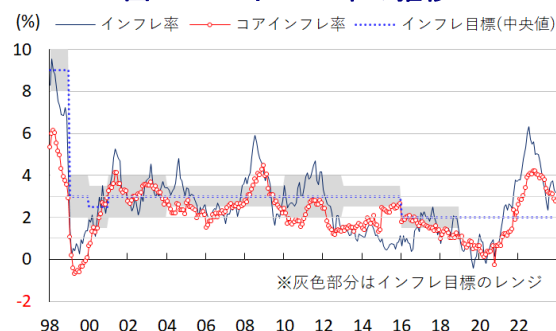
0.00%) から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かるとともに、国際金融市場における通貨ウォン相場の底入れの動きを受けて輸入インフレ圧力が後退していることも重なり、財価格は幅広く落ち着いた推移をみせる一方、経済活動の正常化が進むなかでサービス物価に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるなど、物価を巡る動きはまちまちの様相をみせている様子うかがえる。

図1 KR 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 KR インフレ率の推移



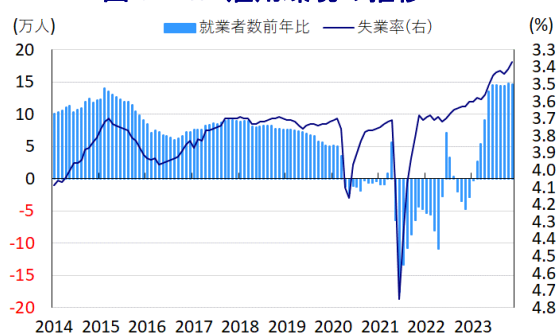
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～サービス業や建設業を中心に雇用は堅調な推移の一方、主力の電子部品で生産底入れに一服感～

22日に発表された11月失業率(季調済)は3.37%となり、前月(3.41%)から0.04pt改善している。失業者数は前月比▲0.4万人と前月(同▲0.3万人)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めるなど、調整の動きが進んでいる様子うかがえる。新卒者のみならず、既卒者において失業者数の調整の動きが進んでいる上、予期せざる失業も減少の動きを強めるなど雇用を取り巻く環境が改善しているとみられる。こうした状況を反映して雇用者数も前月比+0.6万人と前月(同+0.90万人)から2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。分野別では、サービス業や建設業を中心に堅調な推移をみせているほか、鉱業部門で雇用が底入れする動きがみられる上、製造業においても調整圧力が後退する様子うかがえるなど、幅広い分野で雇用を取り巻く環境は改善している。雇用環境の堅調さを反映して労働力人口は前月比+0.1万人と前月(同+0.6万人)からペースは鈍化するも3ヶ月連続で拡大しているものの、労働参加率は59.22%と前月(59.23%)から▲0.01pt低下するも堅調に推移している様子うかがえる。

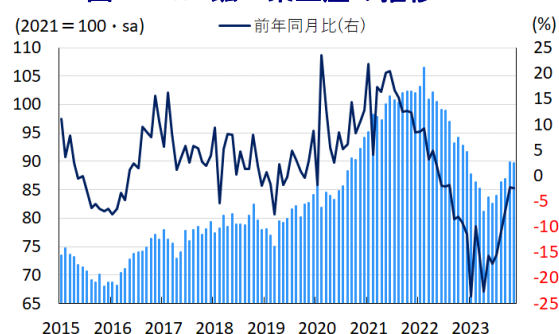
25日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比▲2.48%と18ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月(同▲2.27%)からわずかにマイナス幅が拡大している。前月比も▲0.22%と前月(同+3.42%)から5ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きをみせている。鉱物資源関連の生産に底堅い動きがみられるほか、製造業のなかでは化学製品関連やゴム製品、プラスチック製品など中間財を中心に生産は堅調な動きをみせているものの、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産に一服感が出ていることが生産活動の足かせになっている。

図3 TW 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 TW 鉱工業生産の推移



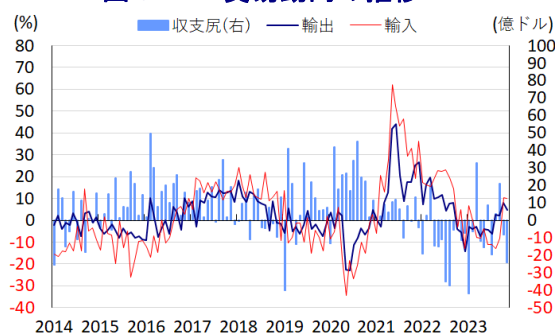
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～輸出は引き続き頭打ちの様相を強めており、生産活動にも下押し圧力が掛かる動きが続いている～

25日に発表された11月の輸出額は前年同月比+4.9%となり、前月(同+8.0%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少するなど下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、中期的な基調も拡大ペースが鈍化するなど頭打ちの様相を強めている様子がうかがえる。財別では、インドによるコメ輸出禁止をきっかけに域内のコメ価格が上振れしていることも追い風にコメの輸出が大きく上振れしているほか、製造業関連の輸出に底堅い動きがみられるものの、コメ以外の農産品関連や鉱物資源関連、金などの輸出に下押し圧力が掛かっていることが輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比+10.1%となり、前月(同+10.2%)からわずかに伸びが鈍化している。ただし、前月比は3ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。輸出と対照的に金の輸入が拡大する動きがみられるほか、鉱物資源関連や原油をはじめとするエネルギー資源関連、資本財関連など幅広い分野で輸入が拡大していることが影響している。結果、貿易収支は▲23.99億ドルと前月(▲8.32億ドル)から赤字幅が拡大している。

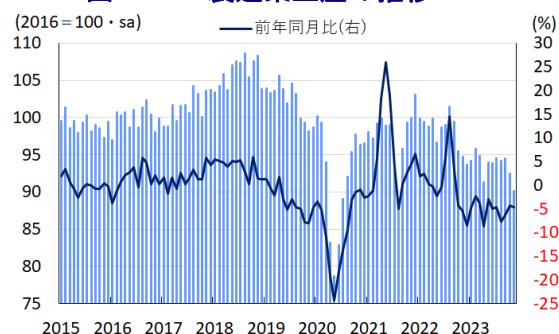
28日に発表された11月の製造業生産は前年同月比▲4.71%と14ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月(同▲4.31%)からわずかにマイナス幅が拡大している。前月比も▲2.55%と前月(同▲2.11%)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、電装品関連や化学製品関連の生産は底入れしているほか、主力の輸出財である電気機械関連の生産にも底堅い動きがみられるものの、自動車をはじめとする輸送用機械関連の生産は弱含む推移をみせるとともに、素材・部材関連や食料品関連の生産が下振れしていることも生産全体の重石となっている。

図5 TH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 TH 製造業生産の推移



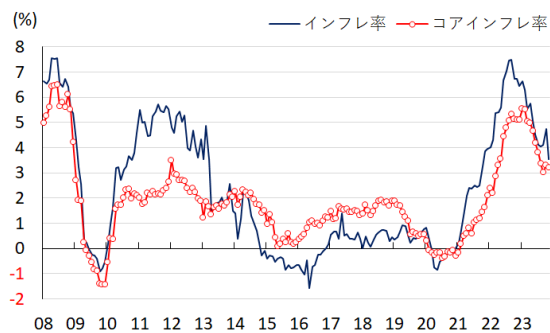
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～エネルギー価格の下落がインフレ鈍化を促す一方、生産活動は一進一退の展開が続く～

26日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+3.6%となり、前月（同+4.7%）から鈍化して2年1ヶ月ぶりの低い伸びとなっている。前月比も▲0.17%と前月（同+0.20%）から4ヶ月ぶりの下落に転じており、穀物や生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇の動きを強める一方、このところの国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格は落ち着いた推移をみせるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品やエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.22%と前月（同+3.22%）から同じ伸びで推移するなど、足下で底打ち感が出ている流れが続いている。ただし、前月比は+0.11%と前月（同+0.11%）から上昇ペースは鈍化しており、エネルギー価格の安定を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かっているほか、国際金融市場における米ドル安を受けた通貨SGドル高を反映して輸入インフレ圧力も後退しており、幅広く財価格に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、サービス物価は上昇の動きを強める展開が続くなど、物価を巡ってまちまちの動きをみせている様子がうかがえる。

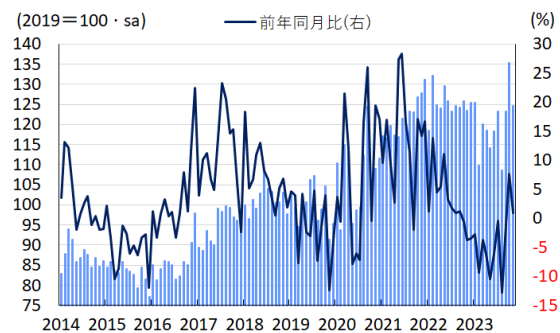
また、同日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+1.0%となり、前月（同+7.6%）から伸びが鈍化している。前月比も▲7.83%と前月（同+9.87%）から3ヶ月ぶりの減少に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向を維持するもペースは鈍化するなど底入れの動きに一服感が出ている様子がうかがえる。なお、同国においてはバイオ・医薬品関連の生産が月ごとに大きく上下に振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向がうかがえるなか、当月は前月比+24.81%と前月（同+58.78%）から2ヶ月連続で大幅に拡大する動きが確認されている。一方、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは前月比▲9.41%と前月（同+4.41%）から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も拡大傾向を維持するも伸びは鈍化するなど頭打ちの動きを強めている。主力の輸出財である電子部品関連の生産に下押し圧力が掛かっているほか、精密機械関連の生産も下振れしている上、金属関連の生産も弱含みするなど、化学関連を除いて幅広く輸出財関連を中心に生産が鈍化する動きが確認されている。

図7 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

